

前回、多治見市の木であるシデコブシの自生地が抱えている問題について説明しました。今回はその解決策について説明します。

シデコブシの自生地である里山が利用されていた時代、現在のような問題は生じていませんでした(むしろ過剰な利用が問題となっていました)。そこにヒントがあります。かつての里山利用のように、シデコブシの自生地をシデコブシも含めて伐採して、明るい環境を取り戻してやれば良いのです。「希少種を伐採するとはなんと乱暴な、けしからん」と思う人もいるかと思いますが、伐採してもシデコブシが死亡することは稀です。私たちが市内のある2カ所の自生地^{まれ}で伐採試験を行ったところ、死亡率は0%と12%でした。ほとんどの個体は萌芽再生します。ひよろひよろ^{かぶだちじょう}だったり傾いていた樹形もきれいな株立状に修正することができます。萌芽再生したシデコブシの一部は3年目の春に花を咲かせるようになりました。ただし、大きくなりすぎた個体は萌芽の数が少なか

ったので、早めに伐採を行う必要があります。さらに、明るくなることで土の中で眠っていたシデコブシの種



▲シデコブシの萌芽

子が^{みしろう}発芽して、実生もたくさん発生するようになることが分かりました。また、それまでは見られなかった湿地性の希少な草本類も発生するようになりました。

大事な点は、シデコブシだけを大事にせず、他の植物と同じ様に伐採するということです。シデコブシだけを伐り残すと、そこはシデコブシだけのいびつな林になってしまいます。シデコブシの自生地の保全とは、シデコブシだけではなくその生育環境全体を保全することなのです。

(岐阜県立森林文化アカデミー 講師 玉木一郎)

土岐川観察館の自然だより

青と緑の物語

問 土岐川観察館 TEL 21-2151

オリオン座

冬の夜空は空気が澄み切って、多治見の空でも星が美しく見えます。また、冬の星座は一等星が多くとてもにぎやかです。中でもオリオン座は、形がとても美しく話題の多い星座です。なかでも有名なのはオリオンの腰のベルトの下、小さく並んだ小三星の真ん中にあるオリオン大星雲です。これは星の間



オリオン大星雲

▲オリオン大星雲

にあるガスが、星の光に照らされて光っているもので、肉眼で見ても少しにじんだように見えます。最近、この星雲は、約10万年前に二つのガスの雲が衝突した姿であることが、名古屋大学などの研究チームによって発見されました。今でも

このガスの中で、新しい星が次々と生まれています。続いてはオリオンの右肩にある赤い星、ベテルギウスです。この星は寿命の末期を迎え、いつ爆発して超新星になってもおかしくないといわれています。もし爆発すると月よりも明るく輝くということです。また、右腰のちょっと上には、ウルトラマンの故郷ともいわれるM78星雲があります。これは小さなガスの雲で肉眼で見えることはできません。もっと明るい星だったら、ウルトラマンももっと活躍できたかもしれませんね。話題の多いオリオン座。晴れた夜にゆっくり眺めてみましょう。



▲オリオン座

(地球村星倶楽部 井戸英夫)